

茅ヶ崎セントラルクリニック

小田島 英明(副技士長/臨床工学技士/コメディカル部)

- 功 績** ESA製剤使用単位適正化に向けて取り組んできた施策が薬剤使用高削減につながっている功績
- 推 薦 者** 阿部 重一(院長/医師/医局)
- 推 薦 理 由** 多職種の協力があってこそその結果ですが、臨床工学の知識と経験を活かし、克服すべき課題に取り組んだ行動力と安心して医師が的確に指示を出し、質の高い医療に臨めた分析力に対して、小田島氏を理事長賞に推薦します。

内 容

平成27年度は稼働率の向上に伴い、医薬品使用高、特にESA製剤180 μ gの使用量が上昇傾向にありました。予算対比幅を狭めていた要因とわかっていながらも、勤務している医師の医局との関係や製剤単位数を下げることで体調が悪くなるといった不安から、一気に変更削減にという事は中々しづらい状況でした。

ただこのまま使用高が上昇する事で何も対策を練らずに経営に影響をおよぼすのは違うといった視点から、医局体制が4月から変わるのを機にと、小田島氏が中心となり、使用単位数削減に向け、数字を根拠とした対象患者選定を始めました。

新しい医師の派遣元の医局でも包括である製剤の単位数を削減する意識が強く非常に強力的であったことも功を奏し、他医療職の協力の下、小田島氏が作成した根拠資料を基に私から提案した事案に同意していただき、結果右記のような数字の改善につながりました。

一人当たりの製剤使用日当点も前年同時期(4月~6月)と比較し、稼働率が上がっているにも関わらず174.3点/人→157.5点/人と大幅に改善されました。

施設1年後の姿に掲げている「薬品・診療材料費納入価を管理を徹底し、経費削減を行い利益を確保する」という目標に向けて、着実に実行しており、成果が経営に大いに結びついていると思います。